



日本糖尿病・肥満動物学会 NEWS LETTER

Vol.23 No.1 June 2019

1) 金澤康徳先生を偲ぶ一幾つかの懐かしいエピソードとともに (野田光彦先生)	1
2) 第33回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を終えて(小川佳宏先生)	2
3) 糖尿病、肥満動物に関わる実験手法についてNo.15「糖新生系活性の評価法」(松本道宏先生)	3
4) 第34回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内	3
5) 若手研究奨励賞を受賞して(12)	4
6) 平成31年「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞各賞受賞者報告	6
7) 平成30年事業・会計報告	7
8) 平成31年事業計画、予算	9
9) 役員名簿	10
10) 日本糖尿病・肥満動物学会会則／賛助会員名簿	11

「金澤康徳先生を偲ぶ一幾つかの懐かしいエピソードとともに」

野田 光彦

国際医療福祉大学市川病院 糖尿病・代謝・内分泌内科 病院教授

日本糖尿病・肥満動物学会が日本糖尿病動物研究会と称していた当時の、第二代の理事長であり、本学会の礎を築かれた金澤康徳先生が昨年10月に逝去され、83歳の生涯を閉じられました。

私は、東京大学第三内科における金澤先生の最後の弟子という立場にあると僭越ながら任じており、自身、東京大学第三内科に入局後、金澤先生のご指示により、当時、平田幸正先生がセンター長でいらっしゃった東京女子医科大学糖尿病センターにて糖尿病臨床の修練を受けた。1年ののち第三内科に戻る形で、研修医の指導などをしながら、金澤先生の手ほどきにより実験を開始した。それは、ラット新生仔臍島の初代培養や、ゲル濾過やHPLC法によるインスリンとその関連分子の分離溶出など、インスリン分泌に関わるものが主であった。そして、金澤先生が牽引者の一人でいらっしゃったインスリン分泌機構研究会(のちのIslet Biology研究会へと承継された)などの研究会や、学会などへも、たびたび同道させていただいた。

金澤先生はまた、亡くなられた東京医科大学動物実験センターの米田嘉重郎先生とともに、1型糖尿病や糖尿病合併症に関するモデル動物の研究にも邁進されていた。そのための実験には私も一緒にさせていただいていたが、金澤先生と私は、外来診療など日々の業務を終えてから、多くの場合、先生が運転される、当時の金澤先生の愛車

であったボルボに同乗させていただき、新宿6丁目の東京医科大学本部校舎に向かい、それから徐に実験を開始するわけであった。したがって、実験はまさに深更に及ぶことも多かったが、そんな折は、私は、金澤先生や米田先生に率いられて、遅くまで開いている近くの小料理屋やあるいは本郷界隈のお店で(金澤先生のご自宅は東京大学に程近い文京区の本郷地区にある)、夕食をご一緒させていただくこともあった。

金澤先生はまた、多くの雑誌の編集にも関わられ、とりわけ、長らく日本糖尿病学会の学会誌である「糖尿病」の編集委員長をお務めであった。私は、先生が東京大学から自治医科大学に移られたあと、金澤先生を追う形で自治医科大学大宮医療センター(現在のさいたま医療センター)に奉職し、先生のご指示のもと、臨床や研究に勤しんだ。私自身も金澤先生のご自宅からwalking distanceに住んでいたことから、必然的に通勤をご一緒させていただく機会も少なからずあったが、そのような折、金澤先生は、多くは投稿論文に朱を入れておられていた姿を彷彿する。

その当時、金澤先生はまた、小坂樹徳先生を支えて日本糖尿病財団の設立のために奔走しておられたが、財団設立のために必要な3億円の基本財産の確保がもう一息という状況であった。そんな折、私の義父(家内の父)の紹介によりある宗教団体の伝手を得て、基本財産へのご

寄付を望むべく、その宗教団体の護摩行に、小坂先生と金澤先生とともに参加したことがある。寒気に満ちた京都の山中で、三人ではらはらと舞い落ちてくる火の粉を受けたことをありありと思い出す。そのような様々な過程を経て、日本糖尿病財団は平成3(1991)年に財団法人として認可を受けた。

その後、私は金澤先生のご推薦により、米国はニューヨーク州のコーネル大学に転ずることとなったが、まさにその直前は、金澤先生が主宰された平成7(1995)年の第38回日本糖尿病学会年次学術集会の準備時期にあたり、私も大いに力を尽くさせていただいた。それがご恩返しの一環にもなっていれば望外と思う日々である。

私が米国から帰国後も、“早期糖尿病の進展抑制に関する無作為比較臨床試験(Japan Early Diabetes Intervention Study: JEDIS) 試験“で一緒にさせていただいたり、“糖尿病予防のための戦略研究”にお力添えを賜ったりした。そんな中、平成16(2004)年10月23日に、わ

が国で唯一の営業運転中の新幹線の脱線事故である新潟県中越地震による上越新幹線の車両事故が起きたが、まさにその脱線車両に金澤先生が乗り合わせておられ、事故に遭遇された際の緊迫した状況を伺ったことなどが生々しく思い出される。

つれづれ、金澤先生の思い出を書かせていただいた。油絵を描いたりクラシック音楽を愛聴されたりするなど、ゆかしい趣味をお持ちであった金澤康徳先生は、私とはやや異なる、生活の中に風雅をお持ちの先生であったが、心根においては、俗塵に生きる私と通底するところは多かったように思う。

不肖の弟子である私ですが、先生の暖かい面影を懐かしく思いながら、擱筆させていただく次第です。

令和元(2019)年 5月

季節外れの暑い日に

第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて

小川 佳宏

九州大学大学院医学研究院 病態制御内科学分野 教授

第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会を2019年3月15日(金)、16日(土)の2日間、九州大学医学部百年講堂(九州大学医学部キャンパス内)にて開催させていただきました。219名の参加者を得て、38演題の講演や発表をいただき、無事に終えることができました。これもひとえに本学会会員ならびに関係者の皆様のおかげと心より感謝申し上げます。福岡開催の第33回年次学術集会では日本国内外の先生方の最先端の研究成果の発表に加えて、春めいてきた福岡を御堪能いただけたものと思います。

特別講演1では、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の梶村慎吾先生より「The Color of Fat: Brown, Beige, White, and more」、特別講演2では九州大学生体防御医学研究所の中山敬一先生より「次世代プロテオミクスが拓く医学生物学の新天地:代謝パスウェイの全貌解明に向けて」について、今後の糖尿病・肥満に関する基礎研究において重要なメッセージが込められた先端的な研究成

果について御講演いただきました。シンポジウムでは、「糖尿病・肥満動物研究Update2019～アジアからのメッセージ～」および「モデル動物から見えてきた代謝研究の最前線」と題し、最新の研究内容について活発な討論が繰り広げられました。グローバル化の時代にアジアの玄関口としての福岡を実感していただくためにも、シンポジストとして日本、韓国、中国より第一線で御活躍の先生方を招聘させていただきました。共催セミナーでもトピックス性の高い話題について御講演いただきました。若手研究奨励賞には11題の御応募をいただき、例年と同じくレベルの高い演題ばかりで僅差の選考となりましたが、厳正な審査の結果、最終的に6名の演者の先生方が受賞されました。又、ポスターフラッシュトークや展示企業によるプレゼンテーションも好評だったようです。

最後に、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催にあたり、多くの方々からの御支援ならびに御協力を賜りました。心より御礼申し上げます。

糖新生系活性の評価法

松本 道宏

国立国際医療研究センター研究所
糖尿病研究センター 分子代謝制御研究部

実験動物が血糖値の異常を呈する場合には、肝臓における糖新生系の異常が原因となっている可能性がある。本稿ではその活性の評価法とその異常の原因の同定法について概説する。

糖新生は糖新生系酵素の作用により非糖質の前駆体からグルコースを合成するATP要求性のプロセスであり、そのグルカゴンによる活性化は血糖値を上昇させ、インスリンによる抑制は血糖値を低下させる。血糖値や血中インスリン・グルカゴン値の測定、インスリン感受性試験や糖負荷試験の結果から糖新生系の異常が疑われれば、絶食下でピルビン酸あるいはグリセロール負荷試験を実施し、これらの基質に依存した肝糖新生能を評価する。絶食下でトレーサーを用いたグルコースクランプ試験から得られる内因性糖産生率(endogenous glucose production)は、肝臓のインスリン抵抗性状態の指標であると共に肝糖新生能の目安となる。各種トレーサーを用いたフラックス解析により肝糖新生の定量が可能である。

肝糖新生活活性の主な規定因子として以下のものが挙げられる。①糖新生関連酵素の活性：ホスホエノールピルビン酸カルボキシキナーゼ (PEPCK)、グルコース-6-リン酸ホスファターゼ(G6Pase)、フルクトース-1,6-ビスリン酸ホスファターゼ (F(1,6)BPase)、ホスホフルクトキナーゼ-2(PFK-2)

/F(2,6)BPase、ピルビン酸カルボキシラーゼ(PC)、ピルビン酸デヒドロゲナーゼ(PDH)など、②糖新生基質の供給量：血中/肝臓内のグリセロール・ピルビン酸・乳酸・糖原性アミノ酸(アラニン他)レベルなど、③酵素反応に必要な代謝産物レベル：血中遊離脂肪酸(FFA)濃度、細胞内ATP・アセチルCoA・F(2,6)BP・NAD⁺・NADH濃度など。糖新生の異常の原因は、インスリン/グルカゴンシグナルと上記①~③の解析から同定を試みる。糖新生関連酵素に関しては、活性・発現量と共にアロステリックな活性調節因子(例：PFK-2/F(2,6)BPaseに対するF(2,6)BP、PCとPDHに対するアセチルCoA)のレベルも調べる。糖新生のための基質と代謝産物に関しては、グリセロールとFFAは脂肪分解に由来し脂肪組織のインスリン抵抗性により肝臓への供給が増加することから脂肪組織の解析も重要となる。またFFAは肝臓においてβ酸化を受けアセチルCoAとATPへと代謝されるため、これらの量と共にβ酸化活性の評価も必要である。血中/組織中の代謝産物の定量には、新鮮な凍結サンプルを用いたメタボローム解析が望ましい。初代培養肝細胞を用いたglucose production assayでは、糖新生活活性の変化が肝細胞自律的であるかを検証できる。

第34回 日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会のご案内

日 時：令和2年(2020年)1月31日(金)~2月1日(土)

開催地：高崎シティギャラリー 〒370-0829 高崎市高松町35-1 TEL:027-328-5050
高崎市総合保健センター 〒370-0829 高崎市高松町5-28 TEL:027-381-6111

会 長：泉 哲郎(群馬大学生体調節研究所 遺伝生化学分野 教授)

プログラム内容

シンポジウムに加えて、柳沢正史氏(筑波大学国際統合睡眠医科学研究機構)、武部貴則氏(東京医科歯科大学統合研究機構・シンシナティ小児病院幹細胞オルガノイド医療研究センター)を特別講演の演者としてお招きします。

お問い合わせ先：

- 主催事務局：群馬大学生体調節研究所 遺伝生化学分野 〒371-8512 前橋市昭和町3-39-15
- 運営事務局：(株)コンベンション・ラボ 〒252-0143 神奈川県相模原市緑区橋本6-4-12 吉川ビル4F
TEL:042-707-7275 FAX:042-707-7276 / E-mail:jsedo34@conventionlab.net

若手研究奨励賞を受賞して 12

骨格筋におけるインスリン受容体基質の役割の解明

相原 允一

東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を頂き誠に光栄に存じます。学術集会会長の小川佳宏先生をはじめ、選考委員会の先生方、学会関係者の方々に心より御礼申し上げます。

私たちの研究室では、インスリンシグナル関連分子の遺伝子改変動物を作製することにより、インスリンシグナルの役割を解明してまいりました。このような中、私は骨格筋においてインスリン受容体基質(IRS)を欠損させたマウスを作製し、その役割について検討を行いました。解析の結果、骨格筋は最大のブドウ糖消費臓器であるにも関わらず、インスリンシグナルは糖代謝への影響よりも骨格筋量の維持に重要なことがわかりました。また、IRS-2については運動後の骨格筋におけるグルコーゲン合成・再貯蔵に関与している可能性が示唆されました。今後は、さらに詳細なメカニズムを検討することで、骨格筋におけるインスリンシグナルについて、新たな知見を得てまいりたいと考えております。

最後に、門脇孝先生をはじめとすご指導いただきました先生方、共同研究者の先生方に感謝いたしますとともに、今後のご指導のほど何卒よろしくお願いいたします。

Mek/Erkシグナルは膵β細胞の量と分泌能を制御する

生島 芳子

国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター
分子糖尿病医学研究部

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして若手研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じます。年次学術集会会長の小川佳宏先生、選考委員の諸先生方、学会関係者の皆様に心より御礼を申し上げます。また、日頃よりご指導を頂いております植木浩二郎先生、共同研究者の先生方、研究室の先生方に感謝申し上げます。

私たちは、膵β細胞特異的Mek1/2欠損マウスを用い、膵β細胞におけるMek/Erkシグナルの役割の解明を進めています。今回の発表では、このマウスが高脂肪食負荷時にインスリン分泌不全を伴う耐糖能異常を呈すること、

また膵β細胞の増殖不全に起因する膵島容量の低下がこの一因として考えられることを報告いたしました。また、2光子顕微鏡を用いた単離膵島の観察により、このマウスでは高グルコースにตอบสนองしたインスリン分泌顆粒の開口放出メカニズムにも障害が生じていることを見出しております。今後、こうした原因について一層研究を深め、膵β細胞におけるMek/Erkシグナルについての理解を深めたいと考えております。今回の受賞を励みにさらに研鑽を重ねる所存です。今後とも、ご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

新規インスリン分泌不全型糖尿病モデル(*ihs*)マウスにおける疾患遺伝子のコンジェニック解析

中野 堅太

国立国際医療研究センター研究所 動物実験施設

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。学術集会会長の小川佳宏先生をはじめ、選考委員ならびに関係されました諸先生方に心より御礼申し上げます。

私たちは、慢性腎症のモデルであるICGNマウスから樹立した新規のインスリン分泌不全型糖尿病モデルである、*ihs*マウスの解析を行ってきました。今回の発表では、この*ihs*マウスがカルシウムシグナルの初期段階に障害を持ち、これにより重度のインスリン分泌不全を生じること、またその原因遺伝子が18番染色体上に存在することを報告致しました。今回示した候補領域内にはインスリン分泌との関連が報告される遺伝子がほとんど存在しないことから、カルシウムシグナルの調節を介してインスリン分泌を制御する新規遺伝子の存在が示唆される結果となりました。本研究では、原因遺伝子の同定までには至りませんでした。今後は候補遺伝子をゲノム編集で改変したマウスを作成し、原因遺伝子の同定とその機能解析を進めていきたいと考えています。

今回の受賞を励みに、さらに精進と研鑽を重ねて参りたいと思います。今後ともご指導、ご鞭撻の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

中枢のインスリン受容体基質(Irs)1による成長・代謝調節機構の解明

林 高則

医薬基盤・健康・栄養研究所 臨床栄養研究部

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を賜り、誠に光栄に存じますとともに、学術集会会長の小川佳宏先生、選考頂き

ました諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております門脇孝教授、山内敏正教授、窪田直人准教授をはじめ、多くの先生方に深く感謝申し上げます。

我々はこれまでに全身Irs1欠損マウスが成長障害を来すことを報告致しました。しかしその後作製された肝臓・血管内皮・筋肉特異的Irs1欠損マウスでは、この成長障害を説明することはできませんでした。そこで今回我々は、中枢におけるIrs1の役割を検討するため脳特異的Irs1欠損マウスの解析を行いました。その結果、このマウスは視床下部でのGHRHの発現が低下し成長障害を呈しておりました。またIrs1をノックダウンしたGHRH産生視床下部神経細胞株ではニューロンの増殖が阻害されることから、中枢のIrs1がGHRHニューロンの増殖を介して成長に重要な役割を担っている可能性が示唆されました。

今回の受賞を励みに、今後一層の精進と研鑽を重ねる所存ですので、今後ともご指導のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

グルカゴン応答性メチル化酵素SETXはSIRT1を介して肝臓の代謝と腫瘍形成を制御する

松川 隼也

国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター
分子代謝制御研究部

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。学術集会会長の小川佳宏先生をはじめ、選考委員ならびに関係の諸先生方に心より感謝申し上げます。

我々は、メタボリックシンドロームや糖尿病などの生活習慣病の病因・病態の解明を目的とし、グルカゴンによる糖新生系酵素などの絶食応答性遺伝子の転写誘導に必須の核内モジュール(GCN5-CITED2-PKAモジュール)の制御分子について研究を行ってきました。今回、本モジュールの新たな制御分子としてグルカゴン応答性のメチル化酵素であるSETXを同定しました。さらに、SETXは脱アセチル化酵素SIRT1の活性化とアセチル化酵素p300/CBP不活化を介して糖新生と発癌を促進する可能性があることを見出しました。SETXはこれまで未解明であったグルカゴンシグナルの亢進と2型糖尿病—NAFLD/肝臓を繋ぐ分子である可能性が想定され、今後より詳細な解析を進めてきたいと考えております。

最後になりましたが、本研究を遂行するにあたりご指導いただきました松本道宏先生、共同研究者の先生方に深謝申し上げます。今回の受賞を励みに、更なる研究の発展にむけてより一層の研鑽と精進を重ねる所存です。今後ともご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

中鎖脂肪酸トリグリセリドのインクレチンGIP分泌への影響についての検討

村田 由貴

京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学

この度は、第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会におきまして、若手研究奨励賞を賜り、大変光栄に存じます。学術集会会長の小川佳宏先生をはじめ、選考委員の諸先生方に厚く御礼申し上げます。また、日頃よりご指導頂いております、原田範雄先生、稲垣暢也教授をはじめ、教室の先生方そして共同研究者の先生方に深く感謝申し上げます。

我々は、中鎖脂肪酸トリグリセリド(MCT)が長鎖脂肪酸トリグリセリド(LCT)摂取後のGIP過分泌を抑制することを見出し、本研究では、その抑制機序とMCTによるGIP分泌抑制がLCT摂取下の肥満やインスリン抵抗性へ及ぼす影響を検討することを目的としました。今回の研究により、MCTはコレシストキニン(CCK)作用を介してLCT摂取後のGIP分泌を抑制すること、その機序にI細胞に発現する長鎖脂肪酸受容体GPR120が関与することが明らかになりました。そしてMCTによるGIP分泌抑制が長期LCT摂取後の体重を抑制することも明らかとなりました。今後も栄養素に対するGIP分泌の機序を解明していきたいと思っております。

今回の受賞を糧とし、さらに精進と研鑽を重ねて参りたいと考えております。今後ともご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

平成31年「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞各賞 受賞者報告

平成31年3月15日の「第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会」(福岡市開催)における、平成31年日本糖尿病・肥満動物学会「後藤賞」、「学会賞「米田賞」」、「研究賞」、「若手奨励賞」の各受賞者については以下の通りです。

今年の学会賞各賞につきましても募集を行う予定でありますので、会員の皆様のご応募、御推薦をお待ちいたしております。詳細につきましては、後日、当会のホームページ (<http://jsedo.jp/>)にてご案内させていただきます。

●特別功労賞「後藤賞」:

榎野 博史 名誉会員 (岡山大学学長)
「糖尿病性腎症の発症・進展機序の解明と治療」

●学会賞「米田賞」:

泉 哲郎 会員 (群馬大学生体調節研究所遺伝生化学分野 教授)
「糖尿病・肥満を呈するマウスの遺伝学的解析」

●研究賞:

窪田 哲也 会員 (理化学研究所粘膜炎システム研究チーム上級研究員)
「血管内皮細胞を介した肥満症・動脈硬化症の分子メカニズムの解明」

●若手研究奨励賞

相原 允一 会員 (東京大学医学部附属病院 糖尿病・代謝内科)
「骨格筋におけるインスリン受容体基質の役割の解明」

生島 芳子 会員 (国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター 分子糖尿病医学研究部)
「Mek/Erkシグナルは膵β細胞の量と分泌能を制御する」

中野 堅太 会員 (国立国際医療研究センター研究所 動物実験施設)
「新規インスリン分泌不全型糖尿病モデル(ihs)マウスにおける疾患遺伝子のコンジェニック解析」

林 高則 会員 (医薬基盤・健康・栄養研究所 臨床栄養研究部)
「中枢のインスリン受容体基質(Irs)1による成長・代謝調節機構の解明」

松川 隼也 会員 (国立国際医療研究センター研究所 糖尿病研究センター 分子代謝制御研究部)
「グルカゴン応答性メチル化酵素SETXはSIRT1を介して肝臓の代謝と腫瘍形成を制御する」

村田 由貴 会員 (京都大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌・栄養内科学)
「中鎖脂肪酸トリグリセリドのインクレチンGIP分泌への影響についての検討」

平成30年事業報告 (平成30年1月1日～12月31日)

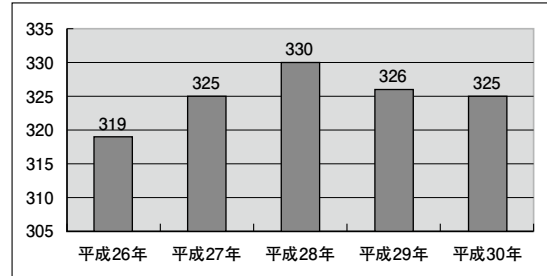
1. 庶務関係報告

1) 会員の動向 (平成30年12月31日現在)

●会員数 (総数 325名、平成29年末総会員数326名)

正会員	
平成29年末会員数	232名 (うち休会会員4名)
平成30年新入会	12名
団体会員より移行	1名
退会者	-8名
正会員現在数	237名
学生会員	
平成29年末会員数	60名
平成30年新入会	6名
退会者	-9名
学生会員現在数	57名
団体会員	
平成29年末会員数	2社
平成30年正会員へ移行	-1社
団体会員現在数	1社
賛助会員	
平成29年末会員数	15社 (20口)
平成30年退会者	-1社 (-1口) (大正製薬株)
賛助会員現在数	14社 (19口)
名誉会員	
平成29年末会員数	17名
平成30年物故会員	-1名 (金澤康徳名誉会員)
名誉会員現在数	16名

会員推移 平成26年12月～平成30年12月 (5年間)



2) 諸会議

- 常務理事会
 - 第1回：平成30年1月27日 (於：フクラシア八重洲 (東京都))
 - 第2回：平成30年7月22日 (於：フクラシア八重洲 (東京都))
 - 第3回：平成30年11月11日 (於：フクラシア八重洲 (東京都))
- 理事会
 - 第1回：平成30年2月23日 (於：ウインクあいち (愛知県))
- 評議員会
 - 第1回：平成30年2月23日 (於：ウインクあいち (愛知県))
- 総会
 - 第1回：平成30年2月24日 (於：ウインクあいち (愛知県))
- 産学協議会
 - 第1回：平成30年2月24日 (於：ウインクあいち (愛知県))

2. 会計関係報告

科 目	予 算 額	金 額	差 異
収入の部			
1. 平成29年繰越金	7,615,460	7,615,460	0
2. 会費収入 (1,906,000円)			
平成30年会費 (1,768,500円)			
正会員 5,000円×193名	1,160,000	965,000	195,000
学生会員 1,500円×29名	90,000	43,500	46,500
団体会員 10,000円×1社	20,000	10,000	10,000
賛助会員 50,000円×10社 (15口)	1,000,000	750,000	250,000
他年年会費 (平成29年以前) (137,500円)			
正会員 5,000円×26名	265,000	130,000	135,000
学生会員 1,500円×5名	46,500	7,500	39,000
賛助会員 50,000円×1社 (1口)	50,000	0	50,000
3. 助成金 (鈴木万平糖尿病学国際交流財団)	1,000,000	1,000,000	0
4. バナー広告収入 (1社 20,000円/1ヵ月)	240,000	20,000	220,000
5. 寄付金 (第32回年次学術集会)	0	120,032	△ 120,032
6. 雑収入 (預金利息)	0	9	△ 9
収入合計 (A)	11,486,960	10,661,501	825,459
支出の部			
1. 印刷費			
ニュースレター編集・印刷費 (Vol.22, No.1, No.2)	300,000	259,200	40,800
挨拶状コピー代 (会費請求、総会案内状、封筒増刷)	300,000	114,009	185,991
2. 会議費 (会場費、交通費)	650,000	620,479	29,521
常務理事会3回			
3. 通信費	100,000	58,271	41,729
切手代及び発送代等 1) ニュースレター 2) 年会費請求、総会案内状等			
4. 学会運営補助金 (第33回年次学術集会)	1,000,000	1,000,000	0
5. 事務用品費	50,000	0	50,000
6. 旅費交通費 (事務局出張費 (愛知))	100,000	76,960	23,040
7. 名簿管理・事務代行費 (株創新社)	324,000	324,000	0
毎月:21,600円×1～12月 年次学術集會月:64,800円×1ヶ月			
8. ホームページ維持・管理・更新費 (株創新社) 毎月:21,600円×1～12月	259,200	259,200	0
9. 学会賞関連 (平成30年学会賞)	800,000	776,962	23,038
10. 振込手数料	30,000	26,932	3,068
11. 予備費	500,000	0	500,000
支出合計 (B)	4,413,200	3,516,013	897,187
次期繰越 (A) - (B)	7,073,760	7,145,488	△ 71,728

3. 年次学術集会関係報告

1) 年次学術集会の開催

第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会報告
会 長：箕越 靖彦

(自然科学研究機構生理学研究所生殖・
内分泌系発達機構研究部門)

会 期：平成30年2月23日・24日

会 場：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)

参加人数：205名

発表演題：特別講演2題、学会賞「米田賞」受賞講演 1題、
研究賞受賞講演1題、
スポンサードシンポジウム 2テーマ10題、
ポスターフラッシュトーク、
一般演題43題(うち若手研究奨励賞応募演題 15
題、ポスターディスカッション17題)、
ランチョンセミナー 2題、イブニングセミナー 1題、
企業プレゼンテーション

若手研究奨励賞受賞者(5名)

Allah Nawaz 会員

(富山大学大学院医学薬学研究部内科学(第一))

「Depletion of CD206 M2-like macrophages enhances
adipocytes progenitor's proliferation and promotes
insulin sensitivity」

栗田 博仁 会員

(奈良県立医科大学糖尿病学講座、名古屋大学環境医学研究所
分子代謝医学分野科)

「グルコース応答性ゲルを用いたエレクトロニクスフリーな新
規インスリンデバイスの開発」

氷室 美和 会員

(順天堂大学大学院代謝内分泌内科学)

「糖尿病の病態解明に向けた膵α細胞新生・成熟機構の
解明」

平田 悠 会員

(神戸大学大学院医学研究科 糖尿病・内分泌内科学)

「高血糖はWWP1/KLF15経路を介して筋萎縮を促進する」

渡邊 一史 会員

(金沢大学新学術創成研究機構)

「肥満モデルにおける肝糖取込み障害メカニズムの解明」

4. ニュースレター関係報告

Vol.22, No.1：平成30年6月30日発行 400部発行

掲載内容

- ・号頭言：松本道宏会員
- ・第32回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を終えて
：箕越靖彦会員
- ・第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について
No.13 大血管病変の評価法：森 雄作先生、平野 勉 先生
- ・若手研究奨励賞を受賞して(11)(5名)
- ・平成29年事業・会計報告、平成30年事業計画、予算
- ・平成30年学会賞各賞の受賞者報告
- ・役員名簿
- ・その他

Vol.22, No.2：平成30年11月30日発行 400部発行

掲載内容

- ・号頭言：水上浩哉会員
- ・北海道胆振東部地震における動物実験施設や実験動物への
影響：中村昭伸会員
- ・第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催につい
て：小川佳宏会員
- ・第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
- ・糖尿病、肥満動物に関わる実験手法について
No.14 解糖系活性の評価法 藤本 新平会員
- ・その他

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係報告

1) 受賞者一覧(授賞式：平成30年2月23日)

●特別功労賞「後藤賞」:

塩田 清二 名誉会員(星薬科大学先端生命科学研究所
先端研究センターペプチド創薬研究室 特任教授)

「脳による摂食調節研究」

●学会賞「米田賞」:

戸邊 一之 会員(富山大学大学院医学薬学研究部(医学)
内科学第一講座 教)

「2型糖尿病におけるインスリン抵抗性の病態の解明」

●研究賞:

神谷 英紀 会員(愛知医科大学医学部 内科学講座 糖尿病内科 准教授)
「糖尿病モデル動物を用いた糖尿病性神経障害の成因・病態
の解明および新たな治療法の開発に関する検討」

2) 平成30年 各賞募集の実施

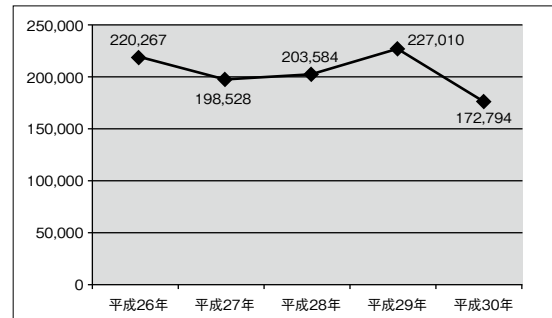
6. その他

1) ホームページについて

①ホームページアクセス数(ページビュー)

1月1日～ 1月31日	19,391
2月1日～ 2月28日	28,858
3月1日～ 3月31日	18,996
4月1日～ 4月30日	10,371
5月1日～ 5月31日	8,296
6月1日～ 6月30日	7,503
7月1日～ 7月31日	10,349
8月1日～ 8月31日	14,913
9月1日～ 9月30日	11,879
10月1日～10月31日	13,623
11月1日～11月30日	14,730
12月1日～12月31日	13,885

アクセス数の推移(平成25年～平成29年)



②メールアドレス登録者数

- ・正会員 237名(登録者:メールアドレス有228名、無4名)
- ・学生会員 57名(登録者:メールアドレス有48名、無0名)
- ・団体会員 1社(登録者:メールアドレス有1社)
- ・賛助会員 14社(登録者:メールアドレス有9社、無1社)
- ・名誉会員 16名(登録者:メールアドレス有12名、無1名)

登録者合計 会員数 325名中

メールアドレス 有:298名、無:6名

メールアドレス 登録回答なし:21名

③平成30年1月1日～12月31日 更新内容

- 1) 第32回、第33回日本糖尿病・肥満動物学会
年次学術集会
- 2) 平成31年学会賞各賞の募集開始
- 3) ニュースレター Vol.22掲載(会員専用ページ)
- 4) その他

④その他

- 1) バナー広告募集の推進について
- 2) メール配信の実施(更新案内など)
- 3) メールアドレス登録の推進
- 4) その他

2) その他

平成31年事業計画 (平成31年1月1日～12月31日)

1. 庶務関係

- 1) 役員改選
- 2) 会員関係 会員の増強について
- 3) 諸会議の開催
- 4) その他

2. 会計関係

科 目	金 額	摘 要
収入の部		
1. 平成30年繰越金	7,145,488	
2. 会費収入		
平成31年会費 (2,230,500円)		
正会員	1,185,000	5,000円×237名
学生会員	85,500	1,500円×57名
団体会員	10,000	10,000円×1社
賛助会員	950,000	50,000円×14社 (19口)
平成30年以前会費未納者分収入	362,000	正会員44名、学生会員28名、賛助会員2社2口
3. 助成金	1,000,000	鈴木万平糖尿病学国際交流財団
4. バナー広告収入	0	
収入合計 (A)	10,737,988	
支出の部		
1. 印刷費		
ニュースレター編集・印刷費	300,000	2回分 (Vol.23, No.1、No.2)
挨拶状コピー代	300,000	会費請求、総会案内状、封筒増刷
2. 会議費	650,000	会場費、交通費
3. 通信費	100,000	切手代及び発送代等
4. 学会運営補助金	1,000,000	1) ニュースレター 2) 年会費請求、総会案内状等
5. 事務用品費	50,000	第34回日本糖尿病・肥満動物学会
6. 旅費交通費	200,000	事務局出張費 (福岡)
7. 名簿管理・事務代行費 (株創新社)	324,000	月々：21,600円×12カ月 年次学術集会月：64,800円×1カ月
8. ホームページ維持・管理・更新費 (株創新社)	259,200	月々：21,600円×12カ月
9. 学会賞関連	800,000	平成31 (2019) 年学会賞各賞
10. 振込手数料	30,000	
11. 予備費	500,000	
支出合計 (B)	4,513,200	
次期繰越 (A) - (B)	6,224,788	

3. 年次学術集会関係

第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会の開催
 会 長：小川 佳宏
 (九州大学大学院医学研究院病態制御内科学分野
 (第三内科))
 会 期：平成31 (2019) 年3月15日・16日
 会 場：九州大学医学部 百年講堂

・糖尿病・肥満動物に関わる実験手法について
 No.16 肝臓における糖代謝の評価法：篁俊成会員

5. 「日本糖尿病・肥満動物学会」学会賞 関係
 2020年学会賞各賞の募集の実施

4. ニュースレター関係

ニュースレターの発行 (年2回発行とする)
 「日本糖尿病・肥満動物学会」ニュースレター Vol.23, No.1
 掲載内容
 ・金澤康徳2代目会長追悼文：野田光彦会員
 ・第33回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催を
 終えて：小川佳宏会員
 ・第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内
 ・平成31 (2019) 年若手研究奨励賞を受賞して (5~6名)
 ・糖尿病・肥満動物に関わる実験手法について
 No.15 糖新生系活性の評価法：松本道宏会員

6. その他
 1) 将来計画ワーキンググループ会議の開催
 2) 臨時理事会の開催

「日本糖尿病・肥満動物学会」ニュースレター Vol.23, No.2
 掲載内容
 ・号頭言：中村昭伸会員
 ・第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催に
 あたって：泉哲郎会員
 ・第34回日本糖尿病・肥満動物学会年次学術集会開催案内

理事・監事・評議員一覧

理事長：寺内 康夫

副理事長：中村 二郎

常務理事（3名）：池上 博司 稲垣 暢也 森 豊

理事（15名）：栗田 卓也 池上 博司 泉 哲郎 稲垣 暢也

小川 佳宏 窪田 直人 竹ノ谷文子 寺内 康夫

中里 雅光 中村 二郎 松本 道宏 箕越 靖彦

森 豊 山田祐一郎 綿田 裕孝

監事（2名）：中村 昭伸 水上 浩哉

評議員（47名）：

阿比留教生 栗田 卓也 池上 博司 泉 哲郎 稲垣 暢也

井上 郁夫 井上 啓 植木浩二郎 尾池 雄一 小川 佳宏

小倉 淳郎 小野 啓 影山 晴秋 片桐 秀樹 神谷 英紀

亀井 淳三 亀井 康富 窪田 直人 三五 一憲 四方 賢一

篠原 雅巳 白川 純 菅波 孝祥 篁 俊成 竹ノ谷文子

寺内 康夫 富樫 優 戸邊 一之 中里 雅光 中村 昭伸

中村 二郎 成瀬 桂子 原田 範雄 藤谷与士夫 藤本 新平

堀尾 文彦 益崎 裕章 松本 道宏 水上 浩哉 箕越 靖彦

森 豊 安田 尚史 山田 哲也 山田祐一郎 横井 伯英

和田 淳 綿田 裕孝

日本糖尿病・肥満動物学会 会則

(名 称)

第1条 本会は日本糖尿病・肥満動物学会（英文では Japan Society of Experimental Diabetes and Obesity (JSEDO)）と称する。

(目 的)

第2条 本会は糖尿病・肥満動物の研究を通じて糖尿病をはじめ肥満、脂質異常症、高血圧症、動脈硬化などに関する学理および応用の研究についての発表、知識の交換、情報等の提供、啓蒙活動を行うことにより、医学、実験動物学、栄養学、薬学等の進歩をはかり、もってわが国における学術の発展と国民の健康増進に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学術集会等の開催
- (2) 会誌、書籍、資料等の刊行
- (3) 研究の奨励および研究業績の表彰
- (4) 国内外の関係学術団体との連絡および提携
- (5) その他、産学協議会の設置ほか当学会の目的を達成するために必要な事業

(会 員)

第4条 本会の会員は次の通りとする。

1. 正会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した個人
2. 学生会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した学生
3. 名誉会員 本会の発展に尽し、学術上顕著な功績のあった者で、理事会が推薦し、評議員会の議を経て総会で承認された者
4. 団体会員 本会の目的に賛同し、規定の会費を納入した団体
5. 賛助会員 本会の目的、事業を賛助する法人または団体

(入退会)

第5条 本会の会員になろうとする者は当該年度の会費を添えて所定の申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なければならない。ただし、名誉会員に推挙された者は入会の手続きを要せず、別に定める手続きを経、かつ本人の承諾をもって会員となるものとする。

2. 会員が退会しようとするときは、理由を付して退会届けを提出し、理事会の承認を得なければならない。

(会 費)

第6条 本会の会費は別に定める。

2. 名誉会員は会費を納めることを要しない。
3. 会費は前納するものとする。前納した会費はいかなる理由があってもこれを返却しない。

(資格の喪失)

第7条 会員は次の理由によって、その資格を喪失する。

(1) 退会したとき

(2) 禁治産若くは準禁治産の宣告を受けたとき

(3) 死亡し、若くは失跡宣告を受け、または本会が解散したとき

(4) 除名されたとき

(5) 会費を3年以上滞納したとき

(役 員)

第8条 本会には次の役員をおく。

理 事 10名以上15名以内〔うち理事長1名、副理事長1名、常務理事（庶務、会計、編集）〕

年次学術集會長 1名

監 事 2名

(役員の選任)

第9条 理事および監事は、理事会が正会員および賛助会員（登録者）から推薦し、評議員会の承認を得た上で、総会で選任する。ただし、賛助会員からの理事数は正会員からの理事数の3分の1を超えないものとする。

2. 理事は互選で理事長および副理事長、常務理事を定める。
3. 理事および監事は、兼務することができない。
4. 年次学術集會長は理事会が正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。理事は年次学術集會長を兼務することができる。
5. 監事は理事会において正会員の中から推薦し、評議員会の審議を経て、総会で選任する。

(役員職務)

第10条 理事長は本会の業務を総理し、本会を代表する。

2. 副理事長は理事長を補佐し、理事長に事故があるとき、または理事長が欠けたときは職務を代行する。
3. 理事は理事会を組織し、この規則に定めるもののほか、常務理事会からの提案事項その他を審議する。
4. 常務理事は理事長および副理事長とともに常務理事会を組織し、本会の実務にあたる。
5. 年次学術集會長は年次学術集会の会長を務める。必用に応じて常務理事会および理事会に出席して意見を述べるができる。
6. 監事は本会の業務および財産状況を監査し、これを理事会および総会に報告する。

(役員任期)

第11条 役員任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。ただし、年次学術集會長の任期は1年とし、再任は認めない。

2. 補欠または増員によって選出された役員任期は、前任者または現任者の残任期間とする。
3. 役員はその任期終了でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

(評議員の選任)

第12条 本会には評議員をおく。

2. 評議員は正会員の中から理事会が推薦し、総会の承認を得て、理事長が任命する。
3. 評議員の任期は2年とし、就任の時点で満65歳を超えないものとする。なお、再任を妨げない。
4. 評議員は評議員会を組織して本会則に定める事項を行うほか、理事会の諮問があった事項、その他必要と認める事項について助言する。

(会 議)

第13条 定期総会は毎年1回開く。ただし、理事会が必要と認めるとき、または正会員の5分の1以上の要請があったときは、臨時総会を開くことができる。

2. 総会は会員の5分の1以上（委任状を含む）の出席をもって成立する。
3. 総会の議決は出席者（委任状を含む）の過半数をもって決する。

第14条 理事会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または理事の3分の1以上から理事会招集の要請があったときは、理事長は20日以内に招集しなければならない。

2. 理事会の議長は理事長とする。
3. 理事会は理事現在数の3分の2以上出席しなければ会議を開き、審議することができない。
4. 理事会の議事は出席理事の過半数をもって決し、可否同数の時は議長の決するところによる。

第15条 常務理事会は理事長が招集し、毎年3回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または常務理事の3分の1以上から常務理事会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

2. 常務理事は庶務、会計、編集等の役割分担を行い、実務を行う。

第16条 評議員会は毎年1回理事長が招集する。

2. 評議員会の成立および議決等は理事会に準じて行う。

第17条 本会に産学協議会をおく。

2. 産学協議会は本学会と産業界を取り巻く問題に

ついて意見を交換し、本会の目的を達成するための研究奨励および事業等について提言する。

3. 産学協議会は理事長、副理事長、常務理事および賛助会員から選出された若干名のものによって構成する。
4. 産学協議会は理事長が招集し、毎年1回以上開催する。理事長が必要と認めるとき、または産学協議会委員の3分の1以上から産学協議会招集の要請があったときは、理事長は速やかに招集しなければならない。

(会 計)

第18条 本会の運営は会費その他の収入をもって充てる。

2. 本会に対する寄付金は理事会の決議を経て受理する。
3. 本会の会計および事業年度は毎年1月1日に始まり、12月31日に終わる。

(会則の変更)

第19条 本会則を変更するときは、理事会の議を経て、総会の承認を得るものとする。

(事務局)

第20条 本会の事務局は、株式会社創新社内に置く。

(付 則)

1. 本会則は平成19年2月10日より施行する。
平成20年2月9日 改定（第12条3項変更）
平成21年2月14日 同（第2条変更）
平成25年2月23日 同（第7条変更）
平成27年2月14日 同（第9条変更）

2. 本会の会費は次の通りとする。

正 会 員	5,000円
学生会員	1,500円
団体会員	10,000円
賛助会員	1口 50,000円

3. 現在の幹事11名は、全員日本糖尿病・肥満動物学会の理事とする。
4. 本会は、会則を新たにして、これまでの日本糖尿病動物研究会を日本糖尿病・肥満動物学会として継続するもので、平成19年2月10日現在の日本糖尿病動物研究会のすべての財産を受け継ぐものとする。

賛 助 会 員 (2019年6月現在)

アステラス製薬株式会社、株式会社アニメック、EPトレーディング株式会社、小野薬品工業株式会社、株式会社三和化学研究所、田辺三菱製薬株式会社、日本エスエルシー株式会社、日本クリア株式会社、日本チャールス・リバー株式会社、富士フィルムワコーシバヤギ株式会社、ノボノルディスクファーマ株式会社、株式会社森永生化学研究所

日本糖尿病・肥満動物学会

Vol.23 No.1 June 2019

発 行 日：2019年6月30日

発 行 人：日本糖尿病・肥満動物学会理事長 寺内 康夫

編 集 人：森 豊（東京慈恵会医科大学附属第三病院 糖尿病・代謝・内分泌内科）

編集及び学会事務局：〒105-0003 東京都港区西新橋2-8-11 (株)創新社内 TEL 03-5521-2881 / FAX 03-5521-2883

URL <http://jsedo.jp/> E-mail info@jsedo.jp

会員専用ページ ID:jsedo PW:member